

第1回かながわ寄付をすすめる委員会 結果概要

日時 平成23年5月27日(金) 16時～18時

場所 かながわ県民センターコミュニティカレッジ講義室1

出席者 全委員、NPO協働推進課長(傍聴者なし)

1 開会

○NPO協働推進課長が設置趣旨などを含めあいさつした。

○各委員が自己紹介を行った。

2 協議

(1) NPO等への寄附促進キャンペーン実行委員会(仮称)の運営等について

○運営に関しては、事務局提案のとおりとした。

○井上委員を委員長、米田委員を副委員長に選出した。

○会議の名称を「かながわ寄付をすすめる委員会」とすることとした。

～主な発言～

<設置要領について>

- ・修正を求めるものではないが、設置要領案について、委員長・副委員長の任期が委員の任期と異なることに違和感を覚える。

<名称について>

- ・「新しい公共」を使用する場合、2年度限りになりかねない。
- ・「すすめる」には、進める、勧める、薦めるといった複数の意味をもたせるため、ひらがな表記とするのがよい。
- ・「神奈川県」を冠すると、行政の権威に頼っているかのような印象がある。

(2) NPO等への寄附促進の取組みの方向性について

○神奈川県新しい公共支援事業の事業計画(案)のうち「寄附促進に向けたNPO認知度向上事業」について、事務局が説明し、その内容について協議した。

○委員会の活動のあり方などについて、意見交換した。

～主な発言～

<県が企画している事業について>

- ・「新しい公共支援事業」が終了した後はどうなるのか。
- 予算の裏づけがなくなるが、事業期間終了後も、NPOや県が連携して寄附促進にあたる体制が維持されることを望んでいる。(事務局)
- ・資料の中にNPOの「ネガティブイメージ」という言葉がある。受託するクリエイターに誤解を与えかねない。事業者をミスリードしないように気をつけてほしい。
 - ・新聞は電子化が進んでいる。また、1日限りの掲載だと、見逃されたらそれでおしまい、という危険性がある。
 - ・神奈川県にはNPOのポータルとなるサイトがない。現在のものは非常に使いにくい。このうえ新たにWebサイトを作るのか。
- 現在の認証法人情報などを提供するサイトとは別に、キャンペーン用のにぎやかなサイトを作りたい。例えば、どのような寄付をしたい場合はどのサイトを見たらよいかなど。

現在のサイトに対する指摘は、今後検討していきたい。（事務局）

- ・キャンペーンサイトは、何だろうと興味を持って入る“入口”となる、知りたい人がしかるべき情報を得られるサイトに飛べるようなものを。行政が出す情報なら安心といった文化から抜け出したい。
- ・寄付を仲介するサイトのようなものがあるが、税金を使う以上は、全NPO法人の情報を出してもらいたい。神奈川県らしさとしてNPOは財産であるという態度を示してもらいたい。
- ・今、色々なNPOに関するポータルサイトがある。新しく作るサイトは、どのように魅力を出すかが大事である。

<委員会における活動について>

- ・例えば、湘南国際マラソンはWebページを持っていて3万人が参加する規模があり、東日本大震災のチャリティとして開催すると聞いている。このようなチャリティを2年の間に増やすことで、寄附促進につながる。
- ・チャリティイベントを“きっかけ”として行い、そうしたことを繋げることで今後につながる可能性がある。
- ・NPOが活動を伝えきれていない問題は、キャンペーンだけで変わるものではない。
- ・広告は消費されていくもの。それだけではない継続するものが必要だ。
- ・寄付には、分野別、地域内の資金循環もあり、これも考えていかねばならない。
- ・今年度は、東日本大震災を絡ませたほうがよい。
- ・現地に行っている神奈川のNPOを取り上げるなど。
- ・震災に際し、85%の日本人が寄付をしたという。寄付の手応え、寄付してよかったというストーリーを、地域・分野に絞って示すことを入口として、そこから広げていくことが考えられる。
- ・何に使われるか明確にすると募金が集まりやすい。顔の見える関係が寄付を誘う。
- ・（キャンペーンの展開を）震災に突き進むと神奈川での活動がかすむ。NPOが身近なものになるよう進めていく必要がある。
- ・寄付がどう生かされたかを訴え掛けるようなキャンペーンになるだろう。
- ・支援活動が喜ばれているということに加え、それはNPOがしたことだということが分かるような表し方がよい。
- ・キャッチーなキャンペーンを打って、その気持ちの盛り上がりが続いていくような工夫が必要だ。
- ・支援活動を行っている団体の報告会の後の寄付募集は、集まりやすい。こうしたことを各地で行うことが考えられる。
- ・被災地に直ぐ行って活躍できるスキームがあったのは、普段活動している神奈川での蓄積があったから、という伝え方がある。
- ・活動を通じた縁（ネットワーク）から生まれた支援活動もある。
- ・大勢だから、ではなく、少数でもずっと付き合ってきたからできたことを掘り起こしてアピールしていきたい。非日常の状態にある人は私たちの身の回りにいる。被災は、それが一挙に大きく出たものであり、日常の状態に戻す、思いの至ったケアができるのはNPOならではの、だから。

- ・こうした活動は、地域ごとにあるがバラバラである。テーマでつなぐ、NPO間の情報交流が必要ではないか。

(3) 活動スケジュールについて

○第2回会議をなるべく時間を置かずに開催することとした。

第2回：6月9日（木）10時～12時

第3回：6月23日（木）10時～12時